

Ⅳ－（３）環境にやさしいまちづくり その２

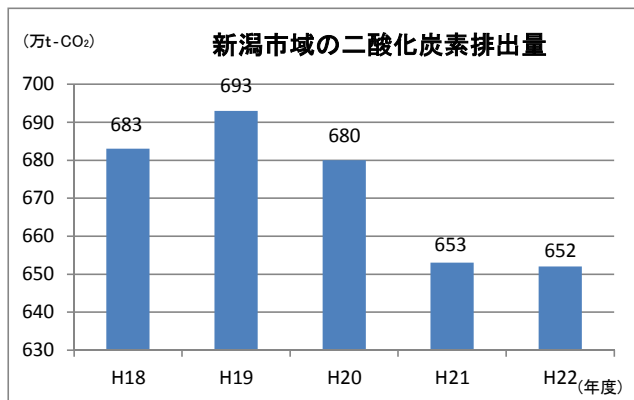
- ◎コンパクトシティの実現
- ◎資源循環型のまちづくり
- ◎田園の保全と自然環境に配慮したまちづくり

これまでの取組み状況

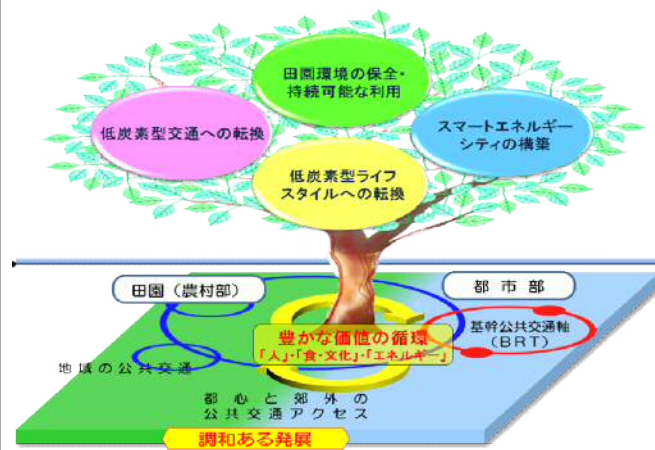
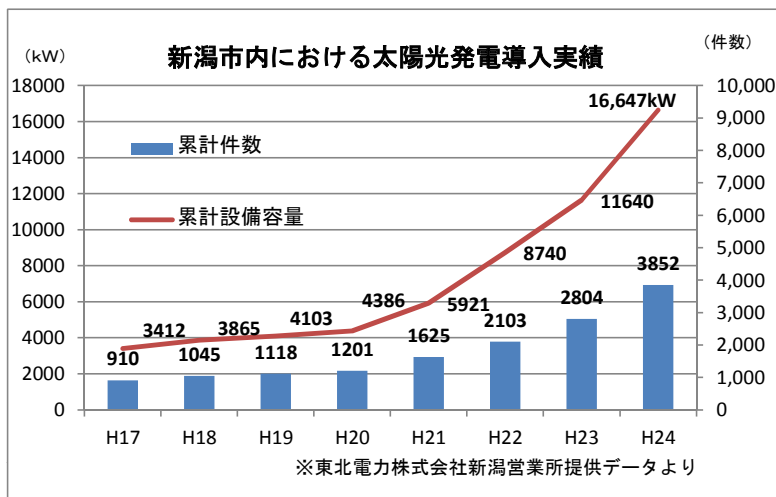
田園型環境都市にいがたの実現に向けて

<低炭素型都市モデルの構築>

- 新潟市地球温暖化対策実行計画の策定
⇒家庭・事業所における省エネの推進や市域からの温室効果ガス排出削減
- 新潟市スマートエネルギー推進計画の策定
⇒再生可能エネルギーの普及やエネルギーの効率的な利用を推進
- 本市の高い目標を掲げた先駆的な取組み
⇒「環境モデル都市」選定
(内閣官房地域活性化統合事務局)



出典：環境政策課資料



本市が目指す環境モデル都市のコンセプト

<ごみの減量とリサイクルの推進>

- 地区ごとに異なっていた分別制度を統一する「新ごみ減量制度」開始
- 3Rを推進するため、資源物の拠点回収、生ごみ減量運動などの実施
⇒1人1日あたり家庭系ごみ量(※)の削減 (H19: 670g H21: 497g H24: 506g)
⇒リサイクル率の向上 (H19: 19.4% H21: 27.5% H24: 26.9%)

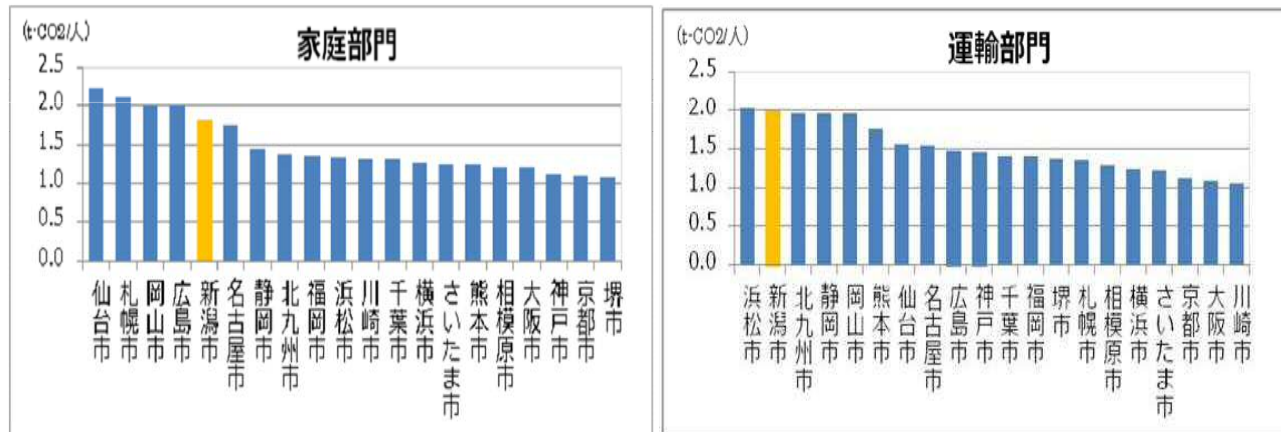
※統計手法の見直しにより、H19はごみ処理施設への家庭系直接搬入(有料分)は含まず、H21及びH24は含む値となっている。

<バイオマス資源の利活用>

- 学校給食残さの堆肥化・飼料化などの食品リサイクルを進めるほか、家庭系枝葉・草及び農業系もみ殻などの植物系バイオマスの利活用の検討に着手。
⇒資源循環社会・ニューフードバレーの形成にも寄与

本市を取り巻く状況

- 他の政令市と比較して、一人当たり部門別二酸化炭素排出量は家庭部門、運輸部門で上位に位置している。



※平成22年度の排出量(各都市同一の推計方法(環境省簡易マニュアル)により新潟市作成)

- 市政について、「ごみ処理」・「リサイクル」は毎年高い順位で推移している。

○市として良くなっているもの

出典：市政世論調査(H23～H25年度)

順位	項目	ポイント	平成25年度 ← 平成24年度 ← 平成23年度			
			項目	ポイント	項目	ポイント
1位	ごみ処理・リサイクル	0.76	市・区の窓口対応	0.70	ごみ処理・リサイクル	0.59
2位	市・区の窓口対応	0.66	ごみ処理・リサイクル	0.64	市・区の窓口対応	0.50
3位	スポーツの振興	0.26	文化・芸術の振興	0.28	スポーツの振興	0.26
4位	文化・芸術の振興	0.23	公共下水道の整備	0.20	道路の整備	0.16
5位	公共下水道の整備	0.18	道路の整備 電子手続きの推進	0.18	文化・芸術の振興	0.15

取り組むべき課題と今後の方向性

◎田園環境・資源循環社会

- ▷資源循環型社会を目指し、本市の特徴である田園環境が持つポテンシャルを最大限活用するとともに、持続可能な公共交通体系を構築などにより温室効果ガスの削減を図り、都市と田園の「調和ある発展」と「豊かな価値の循環」による低炭素型都市づくりを進めていくことが必要。